

家庭の調理簡便化とその周辺（アンケート調査）

○小住フミ子 北崎康子

（鹿児島県立短大）

〔目的〕家庭で調理する価値観が時代と共に変わりつつある。惣菜料理，宅配，外食，輸入食品等と話題は多い。学生を中心に働き盛りの家庭やその周辺にいる人々はどのような理由でこれらを日常生活に利用しているのか知るための調査，検討を行った。

〔方法〕本学食物専攻学生64名にアンケート用紙3部ずつを依頼した。回収率96.4%。調査時期，平成8年8月。解答者は89%が女性で会社員（パートを含む）32%，学生34%，専業主婦29%で，あとは無職その他である。

〔結果〕惣菜料理購入の理由は外出，来客等で忙しい時の間に合わせのため(13%)，手料理と組み合わせながら(59%)，1回の購入金額は300～500円(34%)の品物を購入している人が多い。また味付けが濃いので(14%)飽きがくる(17%)，価格が高い(13%)の不平を持ちながら，購入する際のポイントは製造年月日，新鮮さ，価格の安さ，安全等味の良さと共に多くの事を求めている。また食品を購入の時77%以上の人は輸入食品であるか否かの生産地を意識し，精肉をはじめとする生鮮物には日本で生産されている物を求めている人が多い。過去1年間に利用したことのある食品や食事の宅配サービスは出前が一番多く，次に米，酒，牛乳を主体とする宅配である。外食は1カ月に一回程度をファミリーレストランで利用しているが，美味しいものを食べたいと思う時には寿司，天ぷらの和食専門店が一位であった。家庭での食生活については野菜や果物を取り，無添加物の食品摂取に心掛け，牛乳摂取と豆腐，納豆などの大豆たんぱく等，地方都市でも健康を考えた食生活が惣菜料理，宅配，外食，輸入食品等主体性をもって取り入れられていた。